

もものマルチ資材の利用法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

本県の早生ももは収穫が6月下旬から7月中旬にかけて行われるため、年によっては梅雨の長雨と重複し、土壤水分の過多と日照不足により糖度が上がらず品質が低下する。

このため、収穫前20～30日前の多孔質資材マルチが、土壤水分及び品質向上に及ぼす影響を検討した。

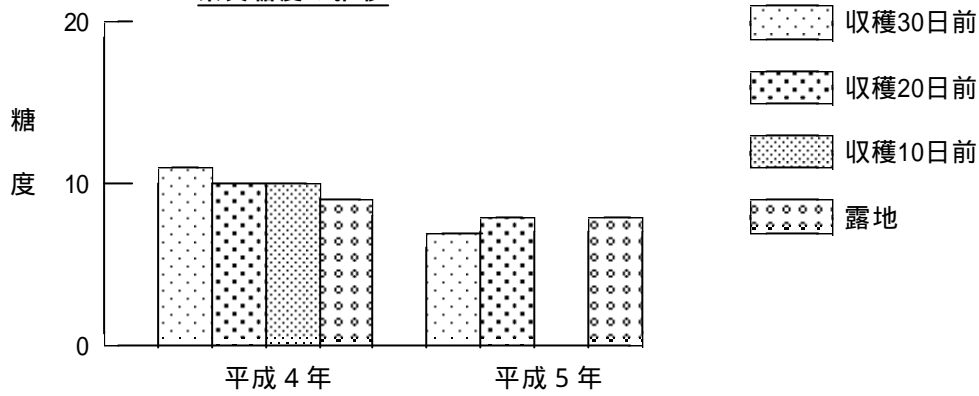
研究の成果

1. 土壤水分は平成4年では収穫30日前のマルチの1ヶ月後では露地に比べて地面より10cmの所では約17%減少したが30cmでは差は見られなかった。なお、収穫10日前のマルチでは、露地と殆ど差が見られなかった。平成5年では記録的な降雨によりマルチと露地の差は見られなかった。
2. 果実の糖度は、比較的降雨の少なかった平成4年はマルチにより10%以上となり、露地より0.9～1.4%高くなった。なかでも、収穫30日前のマルチは11.2%と八幡白鳳としては高糖度であった。しかし、平成5年は長雨と日照不足により糖度向上への効果は見られなかった。これらのことにより、収穫時の土壤水分が30%以上ある場合は糖度の向上は少ないと思われる。
3. 果実の着色は、マルチ期間が長くなるほど早くなる傾向がみられた。
4. 以上のことにより、品質向上対策としてのマルチ資材の利用法は収穫20～30日前に地面より10cmの土壤中の水分が25～30%になった時期に行うことが有効であり、マルチ資材としては多孔質資材が有効であった。マルチの効果は降雨が連続し日照不足の時には効果が低くなる。

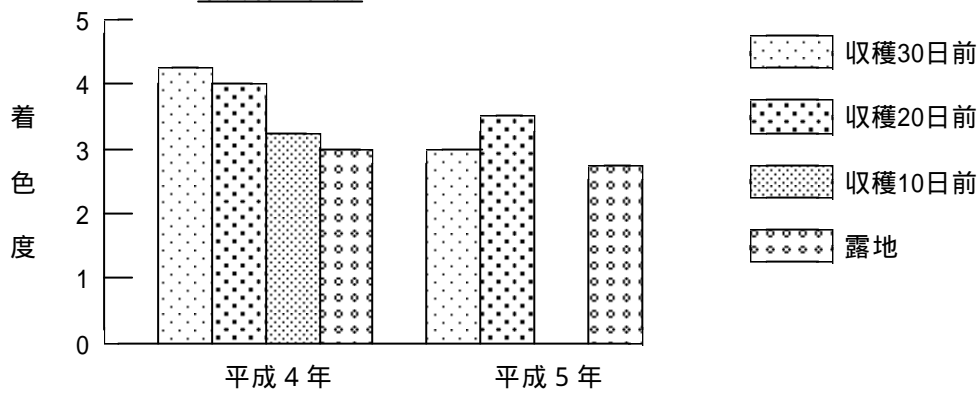
普及上の留意点

- (1) マルチに際しては、降雨による雨水の土壤中への侵入を防止するため、完全にマルチを行うこと。特に、資材と資材の継ぎ目や樹からの侵入には留意する。また、排水を良好に行うために、樹間に排水溝を掘り圃地をカマボコ形に整地することが重要である。
- (2) 降雨が続く場合は、土壤水分が減少にないので天候の良い日にマルチを剥ぎ土壤水分を積極的に減少する。

果実糖度の推移



果実着色程度



土壌水分の推移 (平成4年度) (10 cm)

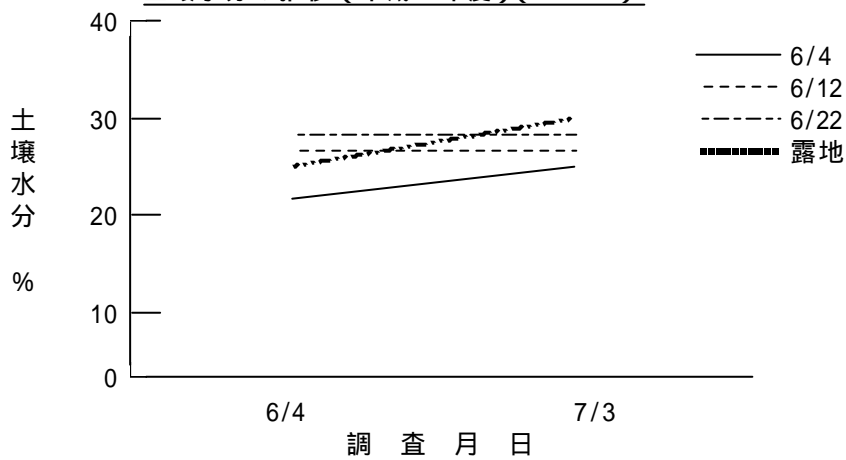


写真 マルチの状況